

頑張ろう!! 社会人野球——チームからのメッセージ

新型コロナウイルスの感染拡大により、夏場までの公式戦が中止になっています。熱い戦いを待ちわびる社会人野球ファンの皆さんに、各地のチームからメッセージをお届けします。



落合 成紀
[JFE東日本／監督]

若い選手が多いので、寮生活では外出を自重し、健康管理に徹底して努めるなど、できる限りの対応をしながら練習にも取り組んでいます。密閉を避けるために室内練習場は使用せず、グループを作って時間帯を分ける。そうした現状を有効に活用しつつ、個々の課題をクリアしています。11月22日の都市対抗開幕を見据えて、何とかモチベーションを維持したい。社会人野球を応援して下さる方々に、元気な姿をお見せできるように頑張ります。



西川 忠宏
[マツゲン箕島硬式野球部／監督]

今年は歴代でも一番強いんじゃないかという戦力で、クラブ選手権の連覇などに向けて準備を整えたところでした。目標を失った選手たちの気持ちを考えると、何ともやり切れません。一日も早く終息させるために、4月下旬まで練習を自粛し、注意しながら仕事や日常生活をしています。箕島というチーム名に懐かしさを感じる方々から、関東でも声援をいただく。各大会が再開された時には、全力プレーを覗いていただければと思います。



篠川 拓也
[日本製紙石巻／主将]

毎年、夏に行なわれる石巻川開き祭りにはボランティアで参加し、東日本大震災で亡くなった方々を供養しています。まだ復興途上の部分も残っており、常に地域への貢献を意識しながら、市民の皆さんに喜んでいただけるようプレーしています。日本選手権の中止は残念ですが、幸い4月初めの時点で地元には感染者がいません。選手たちでも不要の外出を控えるなど、行動や健康管理には十分に気を配りながら、東京ドームを目指します。



川嶋 克弥
[Honda熊本／主将]

2016年春の熊本地震では、私たちもボランティアに参加しながら、日頃から応援して下さる地域に対する思いを深め、野球ができる環境に感謝しました。今回の事態は、困っている人に手を貸すこともできませんが、自覚ある行動が終息につながると信じて生活しています。4月6日から2週間は、終日勤務で自主練習に取り組んだ。毎日、検温してトレーナーに報告するなど健康管理を徹底しながら、公式戦再開に向けて準備をしていきます。



萩田 圭
[西濃運輸／マネージャー]

我が社は現状下における指定公共機関になっていますので、午前中は社業に就き、間接的にも苦しんでいる方々のお役に立てればと考えています。そして、健康管理に十分に注意して練習しています。林(教雄)監督からは「苦しい時期を逆手に取って、じっくりと力を蓄えよう。複数ポジションをこなせるようにするなど、一人ひとりがチャレンジする期間にしよう」という指示があった。一日も早くシーズンが開幕できるように努力します。



野間 源生
[三菱重工神戸・高砂／マネージャー]

三菱重工グループの4チームは、2021年に2チームに統合されます。現在のメンバーで戦えるラストシーズンに選手たちは目の色を変えて臨み、オープン戦も9戦全勝といいスタートを切っていました。日本選手権は中止になりましたが、都市対抗は開催できることを願って、山口(敏弘)監督の「今できることをしっかり積み重ねよう」という言葉を前向きにとらえ、個人練習に取り組んでいます。一丸となった戦いをお見せしたいですね。